「伊賀市を生活上の課題を持つ人が日本一少ない町にする」をめざして

「社協会費」にご協力をお願いします

■伊賀市社会福祉協議会「社協会費」は、身近な地域での支えあい活動や、制度やサービスの狭間となっていることへの対策など、住民を主体とした生活課題の解決に取り組み、地域福祉を基点にしたまちづくりの、大切な財源の一つとなっています。

　また、社協会員になることにより、一人ひとりが『地域福祉』を自らの活動として受け止め、地域福祉活動に間接的に参加していただいているという意味もあります。ぜひ、みなさまのご協力をお願いします。

社協会費の区分と会費

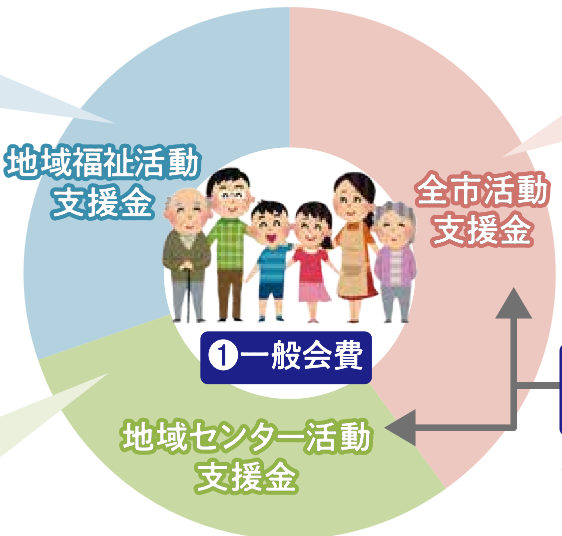
- **①一般会員**　1世帯 500円
  世帯単位で加入
- **②特別会員**　一口 1,000円
  個人単位で加入
- **③賛助会員**　一口 10,000円
  団体・法人並びに事業所を単位に加入
- **④地域会員**　地域の実状に応じて自治会等が設定した金額
  自治会等を単位とした地域福祉活動の趣旨に賛同する世帯を単位に加入

自治協等への「地域福祉活動支援助成事業」に活用

●自治協等が行う、地域課題解決に向けた、地域支援ネットワーク構築のための助成
【例】地域交流／見守りネットワーク構築／災害時要援護者支援／助け合い組織づくり など

社協各地域センターの事業に活用

●地域福祉推進委員会開催
●地域センターだより発行
●各種地域センター事業
【例】イベントや交流会開催／見守り支援の推進／人材養成講座・研修会開催 など



社協組織活動のための全市的な事業に活用

●広報啓発事業（広報あいしあおう・社協パンフレット作成、ホームページ・マスコットキャラクター維持管理）
●地域福祉活動計画推進事業
●県社協会費　等

②特別会費
③賛助会費

※会員の意向により、「全市活動支援金」「地域センター活動支援金」のいずれかを選択して納入

＋

④地域会費

自治会等への「地域会費事業」に活用

●地域の実状に応じて自治会等が設定し、「地域会費助成事業」として助成
【例】ふれあい・いきいきサロン活動支援／地域福祉に寄与する交流会・学習会等／地域独自の福祉活動推進 など

♥社会福祉協議会は、
社会福祉法第109条に基づき、
地域福祉の推進を図ることを目的に
組織されている民間団体です。

特集

大規模災害時も、みんなが生きのびることができる地域に
～外国人防災リーダー育成にむけて～

伊賀市災害ボランティアセンターでは、平成 23 年より「伊賀市災害ボランティアコーディネーター養成講座」及び実践講座を行って来ました。講座では、外国人住民への対応や、やさしい日本語講座は実施していましたが、このたび外国人住民を対象に、災害時に自分の身を守り、防災啓発を行うリーダー養成を企画しています。開催にあたり、日頃から災害支援活動者や外国人住民の支援に携わっている方に、インタビューしました。

■大規模災害時でも、みんなが生きのびることができる地域に

中村伊英さん／伊賀市災害ボランティアセンター センター長

阪神淡路大震災や東日本大震災などを経験した日本人は、いつかまた大規模災害が起こると予想しています。大規模災害時には、生存競争が起こる可能性もあり、限られた資源をどのように分配するかを考える必要があります。非常事態においては血縁や地縁などのつながりがあるか、情報を入手できるかなどによって、有利な人と不利な人ができてしまうことも予想されます。そんな時、みんながなんとかなる、生きのびることができるセーフティネットをみんなで考えよう、と呼びかけています。

災害時には、平時から常設している伊賀市災害ボランティアセンターを非常時体制に切り替えます。困っている人のニーズはどんどん入って来るわけではなく、探さないと発見できません。困りごとがわからない＝サポートができていない可能性があります。外国人住民は、言語やコミュニケーションの問題により、情報を入手できず、情報弱者として取り残されてしまう可能性が高いと想定されます。しかし、その対策は十分とはいえません。そこで、そのきっかけとして外国人防災リーダー教室を始めることにしました。

災害ボランティアセンターは、災害時にボランティア活動により被災地の生活再建を支援できる人の力を必要としています。外国人＝災害弱者ではなく、外国人住民のみなさんのほうが、日本人より災害時に適応できる高いスキルがあるかもしれません。外国人住民が地域や災害について理解を深めていただき、もともとお持ちの力を災害時に発揮できるよう、ボランティアの役割を学ぶような機会になればと考えています。講座を通して、ぜひ私たちも学ばせてもらいたいと思います。

地域支援の現場から

文化や風習、生まれ育った土地によって、災害に対する認識が異なり、防災の備えに関して感覚の違いは少なからず生じます。昨年8月に伊賀市社協が開催した『外国人のための防災教室』の参加者には、「家に帰って、自分も復習しながら子どもたちにぜひ伝えたい」と熱心に写真を撮るご家族があり、知ることの大切さを再認識しました。また、コロナ禍で初めて外国人向けフードパントリーを行った時、ブラジル出身のボランティアさんがコミュニケーションのサポートをしてくれて、とてもスムーズな運営が出来ました。伊賀にはまだまだ私たちが知らない、素敵な人財がたくさんいらっしゃるのではないでしょうか。

今回の養成講座では、参加者が防災知識を深め、災害時の行動や生き延びるためのノウハウを体得し、リーダー同士が仲間となって横のつながりも強くなるきっかけになればと考えています。

外国人のための防災教室の様子

地域福祉コーディネーター
吉田文江

■災害時に孤立せず、地域で顔の見える関係づくりを

古川美紀さん／伊賀市人権生活環境部多文化共生課 主幹

伊賀市には外国籍の人や多様な文化をもった人がたくさん住んでいて、違いによる課題や問題も起こっています。外国人の中には、雨季など自国で自然災害の経験がある人もいますが、経験のない人が多くいます。また、土地勘がない人や、災害時の危険個所などを知らない人もたくさんいます。実際に伊賀地域が台風被害に見舞われたとき、外国人住民に避難を呼びかけましたが、「家にいる」と言って応じてくれなかったことがありました。災害時に逃げる必要があるか、またはどう逃げてよいのかわからない。いざ避難したところで、避難所で受け入れてもらえるか、避難所に行ってもどう行動するか、どのような支援があるか、言葉が分からないために聞くことができないなど、孤立してしまう可能性があると気付きました。

また、土足文化や共同生活のイメージがない人、宗教などで食事制限のある人など、文化的背景なども異なります。みんなが被災者になる可能性があり、避難所でのルールを共有することも大切です。

外国人住民が地域の避難訓練に参加できていない現状もあり、参加しやすい環境づくりや災害への備えが必要と考え、このたびの外国人防災リーダー養成の企画に携わりました。

外国人住民がたくさん住んでいる地域や学校、企業などで、外国人住民の仲間から信頼されている人にリーダーになっていただき、地域の中で顔の見える関係になればいいですね。外国人住民の中には、才能のある人など隠れた人材がたくさんいると思います。キーパーソンとなる人がやりがいを持って活躍され、たくさんの人に繋げていただきたいです。まずは講座に興味を持って多くの人に受講していただき、外国人住民のみなさんで共通の話題になっていくといいですね。

■みんながとりこぼされないために手間がかかるのが「地域づくり」

和田京子さん／NPO法人伊賀の伝丸 代表

伊賀市には、ブラジルやベトナム、中国をはじめ、43か国の人が住んでいます。言語もブラジルはポルトガル語、ペルーなどの南米の国はスペイン語、フィリピンはタガログ語、ビサヤ語、英語など、多様です。広報誌など多言語版で情報発信されているものもありますが、日本語よりは情報が少なく、情報が届いていないこともあります。

総務省の調査によると、外国人が災害発生時において情報を入手する際の言語の希望は、母国語（英語以外）を希望する人90・5％に次いで、やさしい日本語を希望する人は85・5％という結果が出ています。みんながやさしい日本語を話せるといいですね。

日本では、子どもの頃から防災教育がありますが、外国人住民の中には、経験と知識が少なく、災害時にどう対応してよいかわからない人がたくさんいます。東日本大震災の時には、技能実習生を命を懸けて守った雇用主や、安否確認に日本語ボランティアの先生が奔走したといった事例があります。命を守るためにも、日頃から地域とつながっておく必要性を感じています。伊賀で言う、「まいて」という言葉のように、住民自治協議会や自治会などが行う防災訓練などに、外国人住民も一緒に参加しやすい環境づくりも大切です。

みんなで一緒にやっていくためには手間がかかることもありますが、面倒くさいところが「地域づくり」だと思います。だからこそみんながとりこぼされず、みんなが幸せになれる。外国人住民だけでなく、認知症になっても、お金が無くなっても、本当に困ったときに誰かが助けてくれることが理想ですね。外国人防災リーダー養成では、まずはお互いにコミュニケーションをとり、外国人住民が活躍できる場づくりを通して、一緒にやっていくメンバーができればと思います。

外国人防災リーダー教室

日本は、地震や大雨、台風などの災害がよくおこる国です。
災害時に自分や家族、仕事の仲間や地域の人などの命を守り、
生きのびるためには、ふだんからの備えや、
災害時にはみんなで協力してたすけあうことが大切です。
災害のこと、防災のこと、自分が住んでいる地域のことを
学びませんか？

■日時・集まる場所　■プログラム

第1回
7月17日(日)
9:45～17:00
伊賀市総合福祉会館
(平野山之下380-5)

バスツアーで、日本でおこった地震災害を学ぼう！

「人と防災未来センター」見学
行き先／兵庫県神戸市

第2回
8月7日(日)
10:00～12:00
ゆめぽりすセンター
(ゆめが丘1-1-4)

言葉や文化のちがいを理解し、たすけあうためのおはなしをきこう!

「外国人防災リーダーとは」
講師／総社市外国人防災リーダー
総社インターナショナルコミュニティ代表 譚 俊偉さん

第3回
9月18日(日)
10:00～12:00
伊賀市消防本部
(緑ケ丘東町920)

消防士のおしごとや、
応急手当などを学ぼう！

「消防署」見学・体験

対象となる人　簡単な日本語がわかる伊賀市在住・在勤の外国人住民 30人

申込しめきり　7月11日(月)までに、お申し込みください。

【お申し込み・連絡先】**伊賀市災害ボランティアセンター**(伊賀市社会福祉協議会)
☎0595-21-5866／FAX 0595-26-0002
もうしこみQRコード▶

■主催／伊賀市災害ボランティアセンター　■協力／NPO法人伊賀の伝丸・伊賀市消防本部

この事業は、令和4年度伊賀市地域活動支援事業補助金を活用して実施します。

地域のステキな支えあい活動

No.15（神戸地区交流の館「北斗の館」）

◆閉店後のJA支店を、地域活動拠点に!

神戸地区では、農協の「神戸ふれあい支店」が令和３年９月に閉鎖、別地区の店舗に統合され、空き店舗になりました。また、神戸小学校の統廃合が令和５年４月に計画されており、小子高齢化に拍車がかかっている状況です。

そこで、「JAの空き店舗を利活用して、神戸地区を元気にしたい」と、令和２年より、神戸地区支え合いネットワーク協議会役員会で検討を始め、その後、拠点利活用の検討会議で具体的な検討をはじめました。

地区広報や口コミでサロンボランティアを募ったところ、２５人が結集し、運営委員会が設立されました。

◆みんなで手掛けた拠点づくり

まずは、空き店舗の床を塗装したり、暗幕やカウンターを手作りするなど、内装をみんなで役割を分担し、約半年間かけて、見違えるほど居心地の良い場所が完成しました。運営に必要な備品は、スタッフからの寄付や助成金を活用しました。

壁面に飾る「ローズウインドウ」制作

みんなで電灯の交換やお掃除

北斗の館のスタッフのみなさんと、代表の中嶋 孝さん（右奥から２人目）

気軽に立ち寄り、集い、楽しむことができる地域のたまり場、縁側となるような自由空間を目指しています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

神戸地域ってどんなところ？

神戸地区は、周囲を比較的緩やかな里山に囲まれた自然豊かな伊賀盆地の南側に位置した農村地帯です。
【人口1,924人／901世帯／高齢化率46.3%（R4.3末現在）】

コミュニティカフェ「かんべ陽だまりカフェ」

市の介護予防サロンにも登録し、週１回のコミュニティカフェを開設しています。200円でコーヒーとお菓子のセットでおしゃべりを楽しんだり、体操や血圧測定、健康講座などの催し物もあります。

★開設日★
毎週金曜日
（月４回）
9:30～11:30
参加費／200円

農産物直売所「かんべいきいき市」

令和３年３月に閉店した「かんべいきいき市」を再開し、新鮮・安価な農家の野菜や、鳥羽市答志島の「ちりめんじゃこ」などを提供しています。

★開設日★
毎週第1・第3
金曜日（月２回）
9:30～11:30

神戸地域の地域想いびと

担当 地域福祉コーディネーター 恒岡三恵

神戸地区はサロン活動も活発で、新たな拠点では、自治協単位だからこそできる新たな活動を生み出したいという地域の想いがありました。メンバーそれぞれがアイデアを持ち寄り、みんなで楽しみながら４月１日のオープンに向けて準備しました。時にはみなさんの想いや意見が異なることもあり、コーディネーターとして、お互いの話を聞き出しながら、着地点をみなさんと見つけたり、プレオープン開催を提案するなどの支援をしました。今後は活動継続や、コミュニティビジネス創設に向けての夢を支援していきたいです。

福祉の就職フェアinみえ

福祉・保育・看護の仕事をお探しの方を対象に、就職相談会を開催します。

【日時】6月26日(日)
10時～15時
※時間入替制 計70法人(予定)
※午前はオンラインのみ
【会場】メッセウイングみえ
(津市北河路町19-1)
【対象】福祉・保育・看護の職場に就職希望、または関心のある一般・学生
※津新町駅前からシャトルバス運行
※託児室あり(予約制6/17締切)

介護有資格者再チャレンジ研修(受講料無料)

介護の資格は持っているけれど、介護職の経験がない、何年も介護の仕事に就いていないなど、介護の職に就く事が不安な方や、復帰後にもう一度『介護の基本』を学び直したいとお考えの方を対象に、介護の知識や技術のスキルアップができる研修会を開催します。

❶Web研修
【対象】福祉・介護に関する資格を有しながら現在介護の仕事に就いていない、又は介護職として就職・復帰後、概ね1年未満の方
【受講期間】8月1日(月)～令和5年2月17日(金)のうちの3週間(申し込み後本会より日程を案内)
【研修内容】7科目(10時間)

❷介護実技研修
【対象】Web研修受講者のうち、参加を希望する方
【日程】令和5年2月21日(火)、22日(水)
【会場】三重県社会福祉会館
【参加費】無料 150名※先着順
【募集期間】令和5年1月20日(金)まで

介護職員初任者研修(就職氷河期世代)全課程通信講座受講生募集

福祉・介護職場の人材不足を改善するため、就職氷河期世代の離職者や非正規雇用等の方を対象に、受講生を募集します。

【募集期間】
第1回/6月9日(木)必着
第2回/9月29日(木)必着
【研修期間】
第1回/7月1日～11月16日
第2回/10月21日～3月13日
【応募要件】三重県に住民登録をしている就職氷河期世代(36歳～51歳)の離職者や、福祉・介護職場以外の非正規雇用等の方。研修修了後、福祉・介護職場に就職希望の方。
【募集定員】各回40名
(応募者多数の場合は抽選)
【受講料】無料(テキスト代は自己負担)
【受講方法】テキスト等資料による学習とレポート課題の提出

【各申込み・お問い合わせ先】
三重県社会福祉協議会
三重県福祉人材センター
☎059-227-5160

自分らしく踏み出す一歩
15～49歳までの、働きたい悩みを抱えている人とその家族を支援しています。
働くことの困りごとをお聴きしています
「仕事をしたことがない・長続きしない・人と関わるのが苦手」などで悩んでいませんか。
まずは電話やメールでご連絡ください。
個別相談で、ご一緒に考えていきます。
若者の職業的自立のための総合相談窓口
サポステ
いが若者サポートステーション
☎&FAX/0595-22-0039
iga-saposute@npo-en.or.jp
伊賀市上野丸之内500 ハイトピア伊賀3階
■開所日/月～金 9:00～17:00 (土日祝・年末年始は休み)

就職相談 各種講座 利用無料 要予約
仕事にいかせる!!
無料パソコン講座
【ワード】7月1日(金)/5日(火)
時間 9:30～12:00
【エクセル】7月8日(金)/12日(火)/15日(金)
時間 9:30～12:00
サポステ出張相談(ハローワーク伊賀)
6月21日 火 13:00～16:00

広告募集中!

＊季節の変わり目ですね＊

羽毛製品が募金になります。

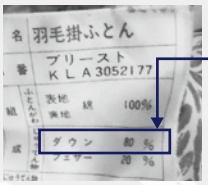
県内市町実績第5位

令和３年 募金実績額 24,740円

羽毛布団	ダウンジャケット
75枚	37枚

回収された羽毛製品が募金になり、じぶんのまちに使われます。

三重県明和町にある企業「エコランド（有）」が、使わなくなった羽毛製品を回収し、町内の障がい者就労支援施設に解体を委託し、大手羽毛メーカーが洗浄して高品質な羽毛に仕上げます。羽毛製品をリサイクルすることで、「羽毛の安定供給」や「環境の保全」「障がい者就労支援」などに貢献し、募金がじぶんのまちに使われます。



○ ダウン率50%以上
○ 穴があいている
○ 汚れている
× ダウン率50%未満
× 濡れている
× 綿・ポリエステルフェザー布団 枕・クッションは回収できません

個人、地域、団体、企業、学校で・・・
羽毛製品の回収に、ご協力ください

UMOU PROJECT 三重県共同募金会

じぶんの町を良くするしくみ 赤い羽根共同募金

○羽毛製品がございましたら、最寄りの伊賀市共同募金委員会窓口（社協各地域センター）までお持ちください。お持ち込みが困難な場合は、お気軽にご相談ください。

上野地域センター☎21-1112　いがまち地域センター☎45-1012　島ヶ原地域センター☎59-3132
阿山地域センター☎43-1854　大山田地域センター☎47-0780　青山地域センター☎52-2999

●遺贈の例

私は夫と二人暮らしで、子どもはいません。夫と私それぞれの親族とはほとんど交流がなく、これからの生活や死後のことを考えると不安です。弁護士に相談すると、夫婦それぞれで遺言を作成しておくことが大切だと聞きました。

遺贈先については、私は地元の福祉に役立ててもらいたいと考え、夫は国際的な支援をしている団体を応援できたらと言っています。私たちの想いを、多くの人の幸せのために役立ててほしいです。

●遺贈の方法●

■ 遺言による寄付
（ご本人による寄付）

■ 相続財産からの寄付
（相続人による寄付）

■ 香典・供花代からの寄付
（ご遺族などによる寄付）

まずは、お問い合わせください。
温かい想いを実現させていただきたく、スタッフがお話をお伺いいたします。

お電話・メールで
☎ 0595-21-5866
メール kikaku@hanzou.or.jp

伊賀市社協　遺贈

伊賀市社会福祉協議会
企画調整課　遺贈相談担当
〒518-0829 伊賀市平野山之下380番地５
伊賀市総合福祉会館１階

数字で見る伊賀市の福祉

令和4年3月末現在（前月比）

伊賀市の人口	▶	87,794人	(−259人)
65歳以上の高齢者	▶	29,576人	(−7人)
高齢化率	▶	33.7%	(+0.1%)
75歳以上の高齢者	▶	15,633人	(+67人)
後期高齢化率	▶	17.8%	(+0.1%)
介護保険認定者数	▶	6,154人	(−20人)

※伊賀市の人口、65 歳以上の高齢者及び高齢化率、75 歳以上の高齢者及び後期高齢化率には、外国人住民を含めています。
※ 75 歳以上の高齢者の全人口に占める割合を、後期高齢化率と表記しています。
※介護保険認定者数は要支援・要介護認定者数です。

あなたのまちのふれあい・いきいきサロン

No.181

いきいきサロン「なかよし会」

メンバー数／12 名
開催場所／山菅区クラブ
開催頻度／月 1 回（日曜日）

平成から長年続いていたサロン「なかよし会」は、しばらくの休止期間を経て、再開して約 9 年になります。当時の民生委員が、声を聞く場の必要性を感じ、再開に向けて運営実行委員の仲間とともに活動してきました。サロンでは、介護予防リーダーによる体操で健康維持につとめるほか、それぞれがアイデアを出し合って、災害時に役立つ情報なども共有し、気軽に集まれる場所となっています。

コロナ禍では、電話や近所で訪問をして安否確認をしました。今はコロナ感染予防対策をしながら、サロンの間隔があいても気長に続けられるよう、2 年計画で案山子を作っています。テーマは『ファミリー』で、老夫婦や若夫婦、子どもたち三世代の表現に知恵を出し合い、「表情は？」「どんな服がいい？」と、会話も弾みます。出来上がりを楽しみに、一緒に作る工程を大切にしています。孤立や不安になりやすい時期でも、つながり合うことが大切。サロンの役割は大きいです。

我ら！ふくしレンジャー

No.190

重倉 純男（かさくら すみお）さん(72 歳)

西山自治会長
（西山集落協定 代表）

●活動を始めたきっかけ

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、平成 26 年度から始まった多面的機能支払制度で「西山ふるさと保全会（代表　重倉 貢 氏）」組織のなかで、「西山草刈り隊」（隊員 38 名）が立ち上がりました。

●活動内容

高齢化が進み、草刈り作業など農地の保全管理が困難となった農家を助けることを目的とした共同取組活動を行っています。荒廃農地を防止し、棚田の良好な景観を保全する活動で地域の活性化を図っています。

●今後の抱負

昨年度末、西山の棚田が国から「ポスト棚田百選」の認定を受けました。これを機に、お互いに助け合いながら 10 年 20 年後、今よりもさらに元気な「西山の棚田」にする基盤造りが私たちに課せられた使命であることを目指し、共同取組活動を行っていきます。

編集後記

新型コロナの影響で自宅待機を命じられ、頼れる人がいないなどで食糧や生活用品の調達が困難な方に、食糧と日用品の配達をしています。5 月から依頼件数が再度増加傾向にあり、1 日10件ほどの配達をする日もあります。1 日も早い終息を願っています。

編集・発行
伊賀市社会福祉協議会

本部
〒518-0829　平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1 階
☎0595(21)5866 ／ FAX0595(26)0002

地域センター
上野
〒518-0829　平野山之下380 番地5 伊賀市総合福祉会館 1 階
☎0595(21)1112 ／ FAX0595(21)8123

いがまち
〒519-1413　愛田 513 番地 いがまち保健福祉センター「愛の里」
☎0595(45)1012 ／ FAX0595(45)1050

島ヶ原
〒519-1711　島ヶ原 4743 番地 島ヶ原福祉センター「清流」
☎0595(59)3132 ／ FAX0595(59)3145

阿山
〒518-1313　馬場 1128 番地の 1 阿山保健福祉センター
☎0595(43)1854 ／ FAX0595(43)1577

大山田
〒518-1422　平田 656 番地の 1 大山田福祉センター
☎0595(47)0780 ／ FAX0595(46)1165

青山
〒518-0226　阿保 1988 の 1 番地 青山福祉センター
☎0595(52)2999 ／ FAX0595(52)3555

●この広報誌は、社協会費、有料広告費等により発行しております。